

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-40		結核検診事業				
主管課	市民健康課	関連課					
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	市民の疾病予防と健康の維持						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
	事業の対象者数	18,685人					
運営資源状況	決算値(千円)	3,399千円	3,735千円	4,421千円			
	(国・県)	0千円	0千円	0千円			
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円			
	(一般財源)	3,399千円	3,735千円	4,421千円			
	人員配置数	0.1人	0.1人	0.1人			
	人件費(千円)	880千円	928千円	937千円			
	協働のパートナー	鎌倉市医師会 検診機関	鎌倉市医師会 検診機関	鎌倉市医師会 検診機関			
事務事業運営経費	総事業費(千円)	4,279千円	4,663千円	5,358千円			
	市民1人当りの経費(円)	24円	26円	30円			
	対象者1人当りの経費(円)	229円	-	-			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
結核検診の受診率	△	目標値	10%	10%	10%	10%	10%
		実績値	3.00%	2.80%			

◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。		
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。		
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止		
結核検診事業	3,399千円	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E
	事業の概要	・16歳~39歳の人を対象に結核検診(肺部のX線検査)を実施する				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)					
H22年度の課題	若年層の検診機会を確保する必要がある。				
課題解決のための取組	検診機会の少ない若年層に対し、検診を継続し、結核の蔓延を防いだ。				
未解決の課題	引き続き、若年層の検診機会を確保する必要がある。				
今後の方針	全国的に若年層の罹患率が増加傾向にあるため、引き続き検診の機会を確保し、結核の早期発見・早期治療につなげていく。				
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒	B	※ □事業完了	課長名 市民健康課長 大澤 一則

